



### ◎活動状況

- ・ [ふくしま21いわき地方園芸特産産地育成プロジェクトチーム会議開催](#)
- ・ [「ふるさと誘致と連携した地域産品づくり事業」の大豆の定植作業実施](#)
- ・ [ふくしまグリーンベルト形成プロジェクト推進に係る『現地検討会』開催](#)
- ・ [田んぼの学校 かかしづくり](#)
- ・ [「食の楽校」田んぼの草取り](#)

### ◎トピックス

- ・ [食育料理教室開催](#)
- ・ [森林環境ゼミナール講演会開催](#)

## 活動状況

### ○ふくしま21いわき地方園芸特産産地育成プロジェクトチーム会議を開催しました

6月2日(月)、県いわき合同庁舎において、園芸特産産地育成プロジェクトチーム会議を開催しました。

プロジェクトチームは、市内の行政機関と農業団体の実務者で構成されており、「ふくしま食・農再生戦略における園芸産地づくり」の推進のため、県推進本部、いわき地方推進本部と連携し、「野菜、果樹、花き、大豆」の4つのチームを設けて、産地戦略の進行管理や見直しに取り組んでいます。

当日は、「いちご、ブロッコリー」の最重点品目、「ねぎ、アスパラガス」の重点品目を対象としたグリーンベルト形成、「日本なし」を対象とした既存産地再生の各プロジェクトの年間活動計画を協議しました。

いわき地方の温暖な気候を生かして、園芸作物の周年供給産地の確立を図るため、関係者が一体となって取り組んでいくことを確認しました。

### ○「ふるさと誘致と連携した地域産品づくり事業」の大豆の定植作業を行いました

6月7日(土)、いわき市田人町貝泊地内で、いわき地方振興局といわき農林事務所の主催により、「ふるさと誘致と連携した地域産品づくり事業」の大豆の定植作業を行いました。

この事業は、安全・安心な手作りの味噌、豆腐を地域産品として作ることを目的に、地元貝泊コイコイ倶楽部との連携のもと、一般から募集した参加者20名と地元貝泊小・中学校の児童、生徒、保護者の14名、それにスタッフを加えた計53名で行われました。

まず、地元貝泊コイコイ倶楽部の蛭田会長から挨拶を頂いた後、農林事務所のスタッフから作業上の注意について、説明がありました。

その後、参加者は2箇所の畑に各々5組ずつに分かれて、各組のリーダーになった地元農業者の指導に従いながら、定植作業を行いました。

事前に準備された大豆の苗は、およそ1万株程度で、予定より生育が遅く初生葉が出始めた程でしたが、参加者は苗を注意深くセルトレーから外して次々に定植し、午前中で作業を終えました。

今後は、11月ごろに収穫、来年の1月ごろに加工体験を予定しております。



定植作業の様子

## ○ふくしまグリーンベルト形成プロジェクト推進に係る『現地検討会』を開催しました

浜通りが一体となって産地振興を図るために、6月10日（火）に県いわき合同庁舎内及びいわき市内のグリーンベルト形成支援実証ほ（アスパラガス：好間・平上平窪、イチゴ：平藤間）において現地検討会を開催しました。今回は相双農林事務所、JA全農福島浜通り営農事業所からも参集し、浜通りの共通振興品目であるアスパラガス、ブロッコリーについて生産面はもとより、販売までつなげた総合的な産地振興の方策について検討を行いました。また、現地実証ほにおいては、実証ほ担当農家も交えた検討が行われ、技術確立に向けた栽培管理の実践、福島県オリジナル品種（アスパラガス：ハルキタル、イチゴ：ふくはる香）の栽培展示効果が確認されました。とくに浜通りにおいてはハウスを活用したアスパラガスの振興が大きな柱として重要であることが一致した意見として出されています。



現地検討会の様子

この検討会を通して、将来的に産地としてどうあるべきかについて関係機関が認識を統一して産地振興にあたる基盤がより一層強まったことから、今後もこのような検討会を継続して開催し、ふくしまグリーンベルト形成プロジェクトを核とした産地振興に取り組んでいきます。

## ○田んぼの学校 かかしづくり

現在、いわき市立夏井小学校では、児童が1年間を通して農家の仕事を体験する「田んぼの学校」活動が行われており、6月12日

（木）、その一環として、5年生によるかかし作りを実施しました。この活動は、かかし作りを通して農村の伝統文化を体験することを目的として行われたものです。

当日は、4つの班に分かれた児童が、それぞれの班ごとに考えてきたアイデアをもとに、かかしの製作に取り組み、子供たちだけでは困難な作業を手伝ってもらうなど、地元応援団の協力を得ながら、各班1体ずつ、合計4体のかかしを完成させました。かかしの出来には児童も満足していた様子で、自分たちの力で苦労して作り上げただけに、愛着もひとしおのようでした。

完成した4体のかかしは、しばらく校内に飾られたのち、次回活動時に田んぼに立てられる予定です。



みんなで記念撮影

## ○「食の楽校」田んぼの草取りを行いました



6月17日(火)、いわき市立渡辺小学校の5年生23名とともに、約1か月前にもち米「まんげつ」の田植えを行った学習田で、草取り作業を行いました。

まず作業に入る前に、当農林事務所の農業普及指導員が、実際に学習田に生えている雑草を手に取りながら、その種類と水稻に及ぼす害について、説明を行いました。

その後、早速、手作業による草取りです。がちりと根を張った雑草は見られませんでした。が、小さな雑草があちこちに生えていたので、児童たちは作業をお手伝いしてくれる地域の方々に負けないよう、一生懸命草取りを行っていました。

さらに、田車を使った草取り体験も行いました。始めはうまく押せない児童もいましたが、地域の方に押し方のコツを教えてもらいながら、作業を進めていました。最後に、雑草の繁茂を抑制しつつ、いずれは肥料になってくれる米ぬかをまいて、今回の活動を終了しました。

収穫まであと4か月。豊かな実りとなるよう、また雑草が見られるようになった時には、再度草取り作業を行うことにしています。



草取りの様子

## トピックス

### ○食育料理教室が開催されました

6月20日(金)、いわき市立すずかけ幼稚園で、年長組の園児とその保護者を対象に、食育料理教室が開催されました。

講師は、いわき地方における食育や「食」と「農」に関する学習機会などに、ボランティアとして御協力をいただいている北尾博水氏(フランス料理シェフ)が務めました。

最初に、天然の着色料を使って色付けされ、見た目や匂いが味覚を裏切るように味付けされたゼリーを用いて、五味の再確認を行いました。ハチミツ色のゼリーがしょっぱかったり、甘いチョコレートがするのになかなか苦かったりと、園児たちは驚きながらも味覚の大切さを感じているようでした。その後、調理実習としてそうめんを調理・試食しました。農林事務所からも食育担当職員が参加し、いわき市内で生産されている主な農産物について、紹介を兼ねて説明を行いました。



緑は甘く、赤がすっぱい!

### ○森林環境ゼミナール講演会を開催しました

6月21日(土)、「森林環境ゼミナール講演会」が、いわき市内郷御厩町の報徳苑で100名の聴講者の参加のもと、盛大に開催されました。

福島県では、豊かな森林を県民共有の財産として保全し、健全な状態で次の世代に引き継ぐために平成18年度に森林環境税を導入しました。森林環境ゼミナール講演会は、「県民参加の森林づくり」の理解を深めて頂くために、福島県森林環境基金により開催したものです。

講師は日本木質ペレット協会会長の熊崎実氏で、「日本林業の再生に向けて」と題して、現在の森林・林業の状況を踏まえて、「県民、事業者、行政それぞれが林業の再生に向けて何をすべきか!」について、講演を頂きました。日本林業



講演会の様子

の再生には、木材のカスケード（多段階）利用が重要であることを、ドイツ・オーストリアの先進事例を交え分かりやすく説明頂き、木質バイオマス利用に積極的に取り組んでいるいわき市にとって、実り多いセミナーとなりました。

10月18日（土）には、第2弾のイベントとしていわき市「21世紀の森公園」にて体験学習の開催を予定しております。

[◀ もどる](#)

[すすむ ▶](#)

[ [▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#) ]